

日本語学会第 162 回大会 プログラム

会 長 福井 直樹
大会運営委員長 伊藤 さとみ
大会実行委員長 酒井 弘

期 日：2021 年 6 月 26 日（土）・27 日（日）

会 場：Zoom

E-mail：lsj@nacos.com（開催期間中を除く。開催中の連絡先は後日公開いたします。）

※オンライン大会登録受付システムにて、事前に参加登録と参加費の支払いが必要です。参加登録は、[ここ](#)をクリックしてください。登録締め切りは 6 月 18 日（金）です。事前登録と参加費の支払いを済ませた方のみ、Zoom ミーティング ID をお知らせします。

※公開シンポジウムは、大会後に録画を YouTube にて公開します。口頭発表とワークショップの録画は、大会後 1 週間の間、参加登録をされた方のみ、公開します。

— 前日（6月25日） —

15:00–17:00	評議員会（評議員の方をご出席下さい。詳細は別便の案内をご参照下さい。）
-------------	-------------------------------------

— 第 1 日（6月26日） —

10:00–16:50	口頭発表（Zoom 詳細は 2–3 頁にあります。）
16:20–17:00	ポスター発表（Zoom 詳細は 4 頁にあります。）
17:00–19:00	懇親会（Remo）

— 第 2 日（6月27日） —

10:00–12:00	ワークショップ（Zoom 詳細は 4 頁にあります。）
12:45–13:30	会長挨拶，日本語学会学会賞授賞式，会員総会
13:30–16:40	公開シンポジウム 「言語の科学とテクノロジーが描く未来社会のビジョン」 <司会> 酒井 弘（早稲田大学） <登壇者> Edward CHANG (University of California, San Francisco) "Toward a speech neuroprosthesis" 川原 繁人（慶應義塾大学）「マイボイス：言語学と医療の接点の一例として」 佐野 大樹（Google Japan）「学習データの言語学：機械学習における言葉の選択」 Steven BIRD (Charles Darwin University) "Designing language technologies with indigenous people"

* 本シンポジウムは、早稲田大学総合研究機構ことばの科学研究所、言語情報研究所、早稲田大学重点領域研究機構学際融合脳科学研究所、早稲田大学理工学術院英語教育センター、言語系学会連合の協賛で開催されています。

■口頭発表（6月26日(土) 10:00-16:50)

	A会場 司会：[1-3] 佐々木 冠, [4-6] 小磯 花絵, [7-8] 李 勝勲	B会場 司会：[1-3] 宮地 朝子, [4-6] 金 廷珉, [7-9] 柴崎 礼士郎
10:00-10:30	[A-1] 松岡 葵 宮崎県椎葉村尾前方言における最小語制約：修飾要素の有無，後続する接語の種類に着目して	[B-1] 氏家 啓吾 複文におけるフレームの重ね合わせー「～が引き金になって」などの例を中心にー
10:40-11:10	[A-2] 黒木 邦彦 鹿児島県中西部方言の自然音類：鼻音系とではなく、清音系と中和する濁音系	[B-2] 堀内 ふみ野, 中山 俊秀 ただの読点、だけどね：構文構成要素としての読点
11:20-11:50	[A-3] 衣畑 智秀 宮古狩俣方言の結果相 <i>ufu</i> の文法化ー統語と意味のミスマッチー	[B-3] 富山 晴仁 理由を表すことに用いる「V テミロ」について
11:50-13:00	(休憩)	(休憩)
13:00-13:30	[A-4] 岸山 健 音韻論的記述への計算モデルのアプローチー音便変化のモデリングによる検証ー	[B-4] 山田 彬堯 尊敬語の類型論
13:40-14:10	[A-5] 竹内 晶 現代口語シンハラ語の前鼻音化子音と鼻音-非鼻音子音連続の判別に寄与する音声的要素	[B-5] 丁 仁京, 滝浦 真人, 林 ひょん情, 玉岡 賀津雄 韓国語における新奇なモノ敬語の容認性に与える要因の考察
14:20-14:50	[A-6] 有賀 照道 日本語における同音異アクセント語の語彙活性ー意味プライミングによる検討	[B-6] 尹 聖樂 日韓における条件を表す「なら」と「-tamyen」の対照分析
14:50-15:00	(休憩)	(休憩)
15:00-15:30	[A-7] Hiroki KOGA Another complex phenomenon posing a problem for Parallel Optimality Theory	[B-7] 萩澤 大輝 -less と -free の語形成再考
15:40-16:10	[A-8] Kaidi LIN The stress system in the Aohua dialect of Yilan Creole: with a special focus on weight-sensitivity	[B-8] 徳永 和博 <i>So-inversion construction</i> の談話機能：倒置が適用された <i>as</i> 節との共通点
16:20-16:50		[B-9] 森 創摩 メタ言語的条件文とメタメタファー的条件文についての考察

	C会場 司会：[1-3] 江畑 冬生, [4-6] 内海 敦子, [7-9] 児玉 茂昭	D会場 司会：[1-3] 成田 広樹, [4-6] 星 英仁, [7-8] 河崎 靖
10:00-10:30	[C-1] 菅沼 健太郎, アクマタリエワ ジャクシルク キルギス語の /ɾ/ 連続における /l/ の交替の再解釈	[D-1] 上田 由紀子, 内堀 朝子 日本手話におけるいわゆる動詞句削除現象ーSASS による CL 動詞に注目して
10:40-11:10	[C-2] 蝦名 大助 カムサ語の動詞における数の標示	[D-2] 永次 健人 日本語における疑問文断片の非明示的 WH 疑問解釈ー削除分析への反論ー
11:20-11:50	[C-3] Chihiro TAGUCHI Mermaid construction in Tatar	[D-3] 秋本 隆之 X-V 型の動詞由来複合語とスルの具現について
11:50-13:00	(休憩)	(休憩)
13:00-13:30	[C-4] 野元 裕樹 西オーストロネシア諸語の看過される裸態構文	[D-4] 高畑 明里 ドイツ語の長距離受身構文における複合動詞形成

13:40-14:10	[C-5] 山本 恭裕 アイク語の結合価	[D-5] 藤井 俊吾 ドイツ語の動詞及び前置詞句命令文に於ける主語と聞き手の同一性
14:20-14:50	[C-6] 大谷 青渚 パイワン語における <i>i-</i> の特徴—「 <i>i+</i> 名詞」と「 <i>i+</i> 斜格 + 名詞」の比較より—	[D-6] 中野 晃希 繫辞残留現象
14:50-15:00	(休憩)	(休憩)
15:00-15:30	[C-7] 中村 涉 ラテン語の不定詞付き対格構文における格配列の最適性理論による説明	[D-7] 大西 貴也 中世低地ドイツ語コーパスから見るデンマーク語従属節語順への言語接触の影響
15:40-16:10	[C-8] 大山 祐亮 レーベンシュタイン距離を用いた歴史言語学の仮説評価方法の構築：スラヴ語派における印欧祖語*-eyes の反映形の問題等を例として	[D-8] 伊藤 克将 ドイツ語の感嘆文の形式意味論による分析
16:20-16:50	[C-9] 大亦 菜々恵 ヒッタイト語のナラティブにおける歴史的現在の談話機能	

	E 会場 司会：[1-3] 林 範彦, [4-6] 品川 大輔, [7-8] 下地 理則	F 会場 司会：[1-3] 中谷 健太郎, [4-6] 大島 デイヴィッド 義和
10:00-10:30	[E-1] 倉部 慶太 借用語受容における言語的要因と社会的要因：ビルマ語群北部下位語群の語彙借用	[F-1] 太田 真理 左下前頭皮質への経頭蓋電気刺激による文理解の促進効果の検討
10:40-11:10	[E-2] 村上 武則 ナガミーズ語の借用語音韻論と多重語の形成	[F-2] 江村 玲 中央アラスカ・ユピック語における文法関係の判断—格・一致・語順の影響—
11:20-11:50	[E-3] 石塚 政行 移動類型論における主動詞の概念—バスク語の動詞と行為副詞の観点から—	[F-3] 磯野 真之介, 広瀬 友紀 日本語の文理解における類似した項の間の干渉効果の発見
11:50-13:00	(休憩)	(休憩)
13:00-13:30	[E-4] 熊切 拓 アラビア語チュニス方言の未完了形における非現実性と時間	[F-4] 宮田 瑞穂 比較副詞としてのマダの意味分析
13:40-14:10	[E-5] 長屋 尚典, 林 真衣, 細羽 洗希 ウェブデータから言語変化を捉える：タガログ語の <i>sana all</i> の分析	[F-5] 松延 比呂伎 コンピュータ文述部に置かれる最上級形容詞の部分的読みについて
14:20-14:50	[E-6] 牧野 友香 ランバ語の動詞分類と叙述類型論	[F-6] Tomoya TANABE, Yurie HARA Question under Discussion-based analysis of Japanese ellipses
14:50-15:00	(休憩)	(休憩)
15:00-15:30	[E-7] Artemii KUZNETSOV From perfect to modal past: distinguishing between two usages of the Old Japanese suffix <i>-kyer-</i>	
15:40-16:10	[E-8] 鴨井 修平 兵庫方言のアスペクト形式における音形と意味のバリエーション	
16:20-17:00		ポスター発表

■ポスター発表 (6月26日(土) 16:20-17:00)

16:20-17:00	[P-1] 五十嵐 小優粒 ペルシア語形容詞の段階性—過去分詞と同形の形容詞に関する一考察—
	[P-2] 吉田 眞三, 中野 陽子 日本語並列名詞句における語順決定要因の検討

■ワークショップ (6月27日(日) 10:00-12:00)

10:00-12:00	[W-1] 言語理論における真の説明を目指して 司会者: 中島 崇法
	[W-1-1] 極小主義理論の基礎仮説群 林 慎将
	[W-1-2] Merge から MERGE へ 杉本 侑嗣
	[W-1-3] 理論的帰結と分析 (I) シークエンス形成と等位接続構造について 大宗 純
	[W-1-4] 理論的帰結と分析 (II) コピー形成とコントロール構文について 中島 崇法
10:00-12:00	[W-2] サンスクリット語研究の過現未 企画者: 川村 悠人 司会者・コメンテーター: 小林 正人
	[W-2-1] <i>dehi-edhi</i> の法則: 印欧祖語*d ^h に由来するサンスクリット <i>h</i> 大山 祐亮
	[W-2-2] サンスクリットにおける受取手のとる格の選択基準—受益性と有生性に関する非対称性から 張 倩倩
	[W-2-3] 『リグ・ヴェーダ』讃歌の特徴を示す分散表現から得られる文書間類似度 塚越 柚季
10:00-12:00	[W-3] 「~かのように」 語ることばたち: 伝え方の意味論に向けて 企画者: 松田 俊介 司会者: 西村 義樹 コメンテーター: 西村 義樹, 野村 益寛
	[W-3-1] 仮想変化表現の射程 野中 大輔
	[W-3-2] ギャップを埋めるデフォルト表現 松田 俊介
	[W-3-3] 非典型的な語彙的使役構文における「かのように」性 長谷川 明香
	[W-3-4] 「かのように」の見えづらさから見えてくるもの 田中 太一

お知らせ

- ◆Zoom へのアクセスについて
Zoom 接続に必要な機器・環境 (ウェブカメラ, パソコン/タブレット, マイク/イヤホン, インターネット接続) は, 参加者各自でご準備ください。
- ◆大会参加費
大会に参加するには, 事前の参加登録が必要です。参加費は, 一般会員 2,000 円, 学生会員 1,000 円, 一般非会員 3,000 円, 学生非会員 2,000 円です。下記リンクから, オンライン登録システムにアクセスし, 登録ください。
<https://orsam.jp/ljsj162/login>
登録締め切りは, 6月18日(金)です。お早めに登録ください。事前登録と参加費の支払いをお済みの方に, 学会 Zoom へのアクセス方法をお送りします。送信は学会の三日前を予定しております。
- ◆予稿集
予稿集は大会の1週間前より学会ホームページから電子版予稿集 (PDF ファイル) がダウンロードできるようになりますので, 事前にダウンロードをお済ませください。紙媒体での予稿集頒布は行っておりません。

◆手話通訳などについて

手話通訳や字幕表示の支援を必要とされる方は、5月14日（金）までに学会事務支局（lsj@nacos.com）にお申し出ください。

◆会員懇親会

会員懇親会は、Remo で開催します。会場へのリンクは、プログラムに掲載します。会費は、無料です。

◆書籍展示

書籍展示は、Remo で開催します。各書店の特設サイト等へのリンクはプログラムに掲載します。

◆大会予稿集、『言語研究』のバックナンバー

過去の大会予稿集および『言語研究』のバックナンバーは郵送での注文を受け付けております。購入をご希望の方は、在庫状況を学会ホームページでご確認の上、学会事務支局までお申し込み下さい。

事務局からのお知らせ

日本言語学会では、2019年度より、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として決めました。制定に至った背景の1つに、2018年8月に開催された「夏期講座2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として、このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、倫理綱領制定のための部会で原案を作成し、常任委員会、そして評議員会で議論の上、制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず、倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で、大会に参加いただきますよう、よろしくお願い致します。

倫理綱領の内容については、日本言語学会ウェブサイトを確認してください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>



次回大会予告（2021年秋季大会：第163回大会）

場 所：Zoom

日 程：2021年11月20日（土）・21日（日）

会長就任講演，公開シンポジウム，口頭発表，ワークショップ，ポスター発表

研究発表募集：学会ホームページから発表申し込みができます。

- ・発表応募締め切り 2021年8月20日（金）（必着）
- ・採否通知 2021年9月中旬

問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com